

学士課程教育の体系化を可視化するための カリキュラムマップ作成に関わるFDと現状の課題

吉田 博、川野卓二、上岡麻衣子、宮田政徳
(徳島大学 総合教育センター)

1. はじめに

我が国の大学においては、迅速な教育改革の必要性が叫ばれて久しい。文部科学省をはじめ、教育関連の学会、機関誌等においても、さまざまな取組が提唱されており、大学が取組むべき課題は山積していることが伺える。特に、文部科学省(2012)では、学士課程教育をめぐる問題の背景・原因として、プログラムとしての「学士課程教育」という概念が未定着であると述べている。つまり、授業内容が教員の裁量によって決められており、教員間の連携や、学位授与の方針に基づいた授業科目間の関連が不十分であるということを示している。これらの課題を解決するためには、どのような学生を育成するのか(学位授与の方針)を位置づけ、その方針に基づく体系的な教育課程の構築が求められる。さらには、教育課程の質保証を考えれば、教育課程の構築に留まらず、授業や成績評価も含めて「体系的」「整合性」「適切性」「妥当性」「有効性」を検証することが求められる(沖ほか2010)。

本学では各学科において3つのポリシーを策定している。しかし、学位授与の方針(DP)、教育課程編成・実施の方針(CP)と各授業科目との関連や体系性については、現状では一部の学科のみで示されている。DPやCPと各授業との関連性を合理的に表現する道具としてカリキュラムマップがあり(沖2007)、近年はカリキュラムマップを作成し、公開している大学も増加している。そこで、2014年度より学士課程教育の可視化を目的とした「質保証のための分野別ワークショップ(以下、質保証WS)」を実施し、2014年度はカリキュラムマップの整備に着手した。

カリキュラムに関わるFDはミドルレベルのFDといい(国立教育政策研究所2009)、3つのレベ

ル(マイクロ・ミドル・マクロ)の中で最も困難だとされている(佐藤ほか2013)。ミドルレベルのFDとしてカリキュラム改善に着手した事例としては、山口大学、愛媛大学、新潟大学、岡山大学などが挙げられる。本学では、これまで主にマイクロレベルのFDを中心に教員個人の教育力向上に努めてきた。今後、学士課程教育の改革を加速させるためには、ミドルレベルのFDを充実させていくことが極めて重要だと考える。そこで、本発表では、学士課程教育の体系化を可視化するために実施しているFDの取組を紹介するとともに、先進事例を鑑みることで見えてくる現状の課題について議論を行い、本学のFD実質化に繋げる。

2. 質保証のための分野別ワークショップ

2014年度の質保証WSの目的は、各学科のカリキュラムマップを作成することである。学部の事情に応じて、学科、または専攻、またはコース単位(以下、グループ)でカリキュラムマップを作成することとし、全22グループからカリキュラム作成に責任を持つことができる教員を作成担当者として選出した。はじめに、全グループを対象に講演会を開催し、カリキュラムマップの意義や概念を理解し、その後グループ単位で個別のワークショップを実施した。個別のワークショップは、総合教育センター教育改革推進部門の教員が作成担当者を支援し、次の手順で進められた。

- (1) DPから10個程度の学習目標を設定する。
- (2) 開講科目と学習目標との関連付けを行い、履修年次、フェーズ、授業方法等をまとめる。
- (3) 学習目標等を軸にして各科目を整理し、科目間の体系性を模造紙上に図示する。
- (4) (3)を電子ファイルとして作成する。
- (5) 各学部の教授会等で承認をとる。

3. 現状の課題

質保証WSでは各担当者がDPや到達目標を再認識し、学士課程教育の一貫性やカリキュラム上の問題点に気づくなど、有益であった点をいくつか挙げる事ができる。しかし、ここでは現状の課題について整理し議論に繋げる。質保証WSにおいて見えてきた課題は次の通りである。

- ◆大学、学部としてのDPが不在である
- ◆共通教育と専門教育との接続がない
- ◆教員ありきで授業が構成されている
- ◆教務担当者が同じコース内の授業を知らない
- ◆JABEEの制限と活用に対応が必要である
- ◆実施時期や期間の十分な検討が必要であった
- ◆FDの位置づけ・実施体制が十分に各グループの担当者に伝わっていない

4. 議論

ここでは、本学の課題を念頭に置きつつ、上述の4大学の先進事例⁶⁻⁹⁾をもとに4つの論点で議論を行い、本学におけるFDの実質化に繋げるための示唆を与える。

まず、大学や学部レベルにおけるDPや教育・学習目標について、岡山大学では大学、学部、学科の順に統一の項目でDPを作成し、教養教育についても大学DPの項目に対応する教養教育DP要素を作成している。山口大学では全学統一の項目でDPと同様な意義を持つグラデュエーション・ポリシーを各学部で作成し、マップの整備に着手している。このように、大学全体としての目標をはじめに掲げておくことは重要である。

次に、実施体制では、学部等でカリキュラム改善の業務に責任を持って従事する教員として、教育コーディネーター(愛媛大学)、ファカルティ・コーディネーター(岡山大学)をそれぞれ設置し、学長が任命している。特にミドルレベルのFDでは、FD活動を担う組織や人材の位置づけを学長名のもと明確にしておくことが必要である。

続いて、部局間の情報共有や相互評価の仕組みについて、愛媛大学では教育コーディネーター研修において、全学部の担当者が一同に会して作業を行い、相互に評価を行う機会を設けている。新

潟大学ではカリキュラムの体系性を可視化することで、特定の教育プログラムに閉じた議論にならないようにしている。本学では、すべてのグループが個別にワークショップを実施しており、他のグループの進捗状況や相互に評価を受ける機会はなく、全学共通教育センターとの確認も各グループに任されていたために、確認を行ったグループは少数であった。FDの設計段階でこのような機会を設ける必要があったと考える。

最後に、実施時期や期間については、4つの事例ともに、体制づくりやDP等の整備と合わせて数年間かけてカリキュラムマップを作成している。また、関係者と議論を重ねることで、情報共有や意識改革を行ってきたことが報告されている。本学の取組は2014年度にカリキュラムマップ、2015年度にナンバリングの作成を行う予定であるが、完成後はカリキュラム評価を行い、大学・学部におけるDP等の整備に伴う再検証など、引き続き検討していくべき課題が残されている。

参考文献

- 1) 文部科学省：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて，2012.
- 2) 沖裕貴・宮浦崇・井上史子：一貫性構築のための3つのポリシー(DP・CP・AP)の策定方法，教育情報研究，26，3，17-30，2010.
- 3) 沖裕貴：観点別教育目標から考えるカリキュラム・ポリシーの構造，立命館高等教育研究，7，61-74，2007.
- 4) 国立教育政策研究所：大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン，2009.
- 5) 佐藤浩章ほか：FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ，大学教育学会第36回大会発表要旨集録，18-19，2013.
- 6) 小川勤：学士課程教育の質保証のための組織的カリキュラム改善の取組，京都大学高等教育研究，16，13-24，2010.
- 7) 小林直人・清水栄子：日本の高等教育機関における全学的FDの現状と課題，工学教育，62，2，9-18，2014.
- 8) 澤邊潤ほか：新潟大学における学士課程教育の実質化に向けた「FDプログラム」の実践，日本教育工学会論文誌，36，2，147-157，2012.
- 9) 岡山大学教育開発センター：岡山大学における学士課程教育の構築<中間まとめ>，2012.